

バーミリオン・セラピューティックス株式会社
三菱 UFJ キャピタル株式会社

2020 年 12 月 15 日

バーミリオン・セラピューティックス株式会社、東京大学大学院薬学系研究科と光応答触媒のライセンス契約を締結、投資家ラウンドにおける第三者割当増資を実施

研究開発型創薬ベンチャー企業のバーミリオン・セラピューティックス株式会社(代表取締役社長 CEO:鳥居慎一、所在地:東京都渋谷区、以下、「バーミリオン・セラピューティックス」)は、この度、東京大学大学院薬学系研究科有機合成化学教室(教授:金井求)及び機能病態学教室(教授:富田泰輔)と、光応答触媒の開発および医薬品応用に向けて、ライセンス契約を締結いたしました。合わせて、創業シードラウンドで三菱 UFJ キャピタル株式会社を引受先とする第三者割当増資を実施いたしました事をお知らせいたします。

中枢神経系ではアルツハイマー型認知症を代表とする不溶性アミロイド・タンパクの凝集によって引き起こされる疾患のみならず、その他の各種アミロイドーシス(中枢および末梢アミロイドーシス)に対しても、現在有効な治療方法が存在せず、治療薬の開発が切望されています。バーミリオン・セラピューティックスはこれらの各種アミロイドーシス疾患に対して、東京大学大学院薬学系研究科と共に、治療薬候補化合物の探索研究および研究開発、その他の前臨床試験等の研究開発を行い、まずは増資した資金をもって候補化合物を用いた難病や希少疾患に対する Proof of Concept を得ることを目指します。

バーミリオン・セラピューティックスは、東京大学大学院薬学系研究科の金井求教授と富田泰輔教授の研究室が共同開発したアミロイドペプチドやタウタンパクの凝集抑制作用を有する化合物を創薬のリード化合物として、その薬理作用を最大化する化合物を探索することによって中枢および末梢アミロイドーシスに対する医薬品開発することを主な目的とし、2019 年 11 月にアカデミア発創業された創薬ベンチャー企業です。今後は両研究室とさらなる共同研究を進めていくことで、アンメットメディカルニーズの高いアルツハイマー病、および末梢性アミロイドーシスに対する新規治療薬の創出を目指して東京大学を始めとして国内・国外の大学との共同研究を行って参ります。

以上

【バーミليون・セラピューティックスについて】

バーミليون・セラピューティックス株式会社は、東京大学大学院薬学系研究科の金井教授、富田教授によって見出された研究成果、技術をもとに、医薬品への応用開発を担うアカデミア創薬ベンチャーとして創業いたしました。本研究シーズである各種化合物は、アミロイドβ、タウ、α-シヌクレイン、トランスサイレチン、免疫グロブリン軽鎖、血清アミロイドA等に対する凝集抑制作用を有する化合物であり、今後はアルツハイマー病や末梢性アミロイドーシス等のアンメットメディカルニーズの高い疾患に対する画期的な新薬開発、新規モダリティ技術を用いた画期的な創薬活動を行います。

(Web: <https://www.vermilion-tx.com>)

【東京大学大学院薬学系研究科について】

東京大学大学院薬学系研究科では、薬学のすべての分野において、最高水準の研究活動を行い、これに裏付けられた教育活動により、創薬科学および基礎生命科学の発展に寄与する研究者、医療行政に貢献する人材、高度医療を担う薬剤師の養成を教育・研究の目的としています。

【三菱UFJキャピタルについて】

三菱UFJキャピタルは、1974年に設立以来、三菱UFJフィナンシャル・グループのベンチャーキャピタルとして業界をリードするノウハウを提供し、幅広い業種に対する投資を行っています。IPOを実現されたお客さまは、幅広い業種にわたる累計850社超と、業界トップクラスの実績を有しています。

ライフサイエンス分野においては、2009年のライフサイエンス室発足後、国内外のバイオベンチャーへの資金提供、経営支援を本格的に開始し、2017年には、ライフサイエンス部を創設するとともに、当社初となる業種特化ファンドとして、三菱UFJライフサイエンス1号投資事業有限責任組合(100億円)を組成しました。2019年2月には三菱UFJライフサイエンス2号投資事業有限責任組合(100億円)を組成、2020年6月には新型コロナウイルス感染症対策を含む、創薬・再生医療等を担うベンチャー企業を支援するMUFGメディカルファンド(100億円)を組成し、バイオベンチャー投資にとどまらず、アカデミア創薬、製薬会社のカーブアウト案件、製薬会社の開発プロジェクトへの投資、医療機器関連にも注力しています。